



奈良教育大学後援会

《第27号》

発行：奈良教育大学後援会事務局 奈良市高畑町奈良教育大学内 電話 0742-27-9276 FAX 0742-27-9146

会 報

2025. 12. 1 発行



社会に飛び立つ 準備のために

奈良教育大学後援会
会長 竹村 光 史

後援会会員の皆様には、日頃より後援会活動にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

前会長の功績を受け継ぎつつ、さらに発展させていく様な後援会活動ができるよう精一杯励むつもりです。しかし、なにぶん初めてのことばかりで、至らない点多々あろうかと存じます。皆様には引き続き、ご指導ご鞭撻を頂ければ幸いです。

近年地球温暖化の影響なのでしょうかね年を追うごとに気温が上がってきており、特に今年の夏は日本中が猛暑・酷暑になり観測史上の最高気温を記録した地域が多数出たように思います、この猛暑の中大阪で55年ぶりの万国博覧会が開催され無事盛況のうちに終わったように思われます。開催にあたっては、関係者の方々がいろいろ入念に準備作業をされてきたと思いますが、直前になって、いろいろな不安材料がメディア等に取り上げられどうなるかと思いましたがいざ始まってみると尻上がりに入場者数が増えて多少のハブニングなどがありましたが総じてみるとうまく開催できたのではないのでしょうか、これもひとえに事前の入念な準備のたまものではないかと思えます。考えてみますと本学の学生も勉強などの学生生活を行っているのも社会にでて活躍するための準備ともいえるのではないかと思います。

当後援会としても、その学生生活を有意義に送れるよう少しでもバックアップしてまいりたいと考えております。今般、本大学も他の国立大学と同様に財政が非常に厳しい状況であるとお聞きしております。後援会では大学側と連携し、クラブ活動・大学祭の開催・図書の実・教育実習・就職支援・学生奨励費の給付等、すべての学生を対象にした様々な支援活動を展開しております。

また会員の皆様には、次代活躍されるであろう学生の皆さんの為、今後ともご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。



悩みと喜びと期待と…

国立大学法人奈良国立大学機構
奈良教育大学
学長 宮下 俊也

奈良教育大学後援会の皆様におかれましては、日頃より本学の教育・研究にご理解・ご協力をいただき、学生の学びを様々な面からご支援いただいておりますことに、深く御礼申し上げます。

皆様もご承知のとおり、今、全国の国立大学が財政上の厳しさに頭を抱えています。諸物価や人件費の高騰が続く中、国からの運営費交付金の増額は見込めず、本学でも授業料を値上げすることなく、いかに教育の質を保ちながら経費を削減するか、外部からの収入を増やしていくか、日々検討を続けております。そのような中、後援会からのご支援は大変貴重なものとなっています。あらためて感謝申し上げるとともに、引き続き、ご寄附等をお願いできれば大変嬉しく存じます。

さて、こうした経営上の悩みをひと時でも忘れさせてくれるものが、学生の活躍です。全国的に教員志望者が低下する中、本学への志願者や、教員就職率・教員採用試験（教採）合格率は順調に推移しており、全教職員が喜びを分かち合っています。

毎年、教採面接試験の前に、希望者を対象に「学長面接」を行っています。そのねらいは、①自分の中にありながら自覚できていないアピールポイントを顕在化させ、自信を持たせる、②これまでの練習で用意してきているQ&Aにゆさぶりをかけ、考えさせ、自分にしかないアピールポイントを論理的に整理させる、③これらを通して不安を払拭させ、自信と「自分を売り込める楽しさ」を意識化させる、ことです。私からの問いは、「入室の際『失礼します』と言ったけど、何を失礼するの？」「何を私から聞かれると思う？」から始まり、「あなたの強みは何？」「何事も最後までやり通すことが強み」といったけど本当にそう？何か挫折したことはないの？」「焼肉屋でのアルバイト経験には教職に繋がる重要な共通点があるけどそれは何？」などと続きます。一方「教員を志望した動機」はあまり尋ねません。なぜなら「恩師との出会い」をほとんどの学生が述べるからです。恩師のこういうところが自分を惹きつけたのか、その惹きつけた理由を大学での学びを通して客観的に分析し「こういうことだったんだ」と言えるようになればよいと考えます。

世の中、答が1つとは限らない事象はいくらでもあります。教育もそうです。答は1つだと思って正解を探しに行くことをやめ、感性を発揮して課題を察知し、対応を予測し、考え、自分なりの意見を言葉で表現できることを期待しているところです。



奈良教育大学「未来を育む基金」について
(パンフレットも同封しています)



いかにして 正しい情報を得るか

国立大学法人奈良国立大学機構
奈良教育大学
保健センター長 田 中 文 隆

本年4月より奈良教育大学保健センター長・教授を拝命いたしました田中と申します。まずは恒例に従い、私の略歴をご紹介させていただきます。1996年に岩手医科大学医学部を卒業後、同大学附属病院にて臨床研修医として勤務いたしました。その後、2012年より同大学腎・高血圧内科分野の講師、2017年より准教授を務め、2025年4月に本学に着任いたしました。これまでの診療では、循環器疾患、腎臓疾患、高血圧などの領域に携わり、岩手県の盛岡市をはじめ、沿岸部や内陸部など幅広い地域での診療に長年従事してまいりました。研究面では、循環器系の疫学を専門とし、岩手県の地域住民を対象とした心血管疾患の発症および死亡の予測因子の同定、東日本大震災による循環器疾患発症への影響、腎臓病患者における栄養状態指標と予後との関連などを主なテーマとして、取り組んでまいりました。

私は、望ましくない転帰に至る多くの動脈硬化性疾患の診療経験を通じて、発症に至る前段階での予防の重要性を強く認識し、予防医学を研究テーマとして取り組んできました。臨床医学には、いまだ未解明の領域が多く存在し、治療に関する質の高い科学的エビデンスが十分に確立されていない分野も少なくありません。メディアでしばしば語られる「健康」や「長寿の秘訣」についても、実のところ、医師でさえ明確な答えを持ち合わせていないのが現状です。そうした中で、これまで十分に検証されることなく見過ごされてきた事象や、慣習的に受け入れられてきた臨床上の認識を、科学的根拠に基づいて整理し、文書として体系的に示すことに価値を見出しながら、約20年にわたり臨床研究に取り組んでまいりました。今後は、保健分野において研究をさらに展開し、学業や研究の魅力を学生の皆さんにも伝えていければと考えております。

就業環境や個人の価値観の多様化を背景に、保健センターがメンタルヘルス支援の役割を担う重要性は、ますます高まっております。前任の辻井啓之先生が築かれた保健センターの運用様式を踏襲しつつ、大学のニーズに即した体制の整備に努め、学生および教職員の身体・精神面の健康管理に尽力してまいりたいと考えております。今後とも、後援会の皆様には温かいご支援とご助言を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



☆☆☆ キャリアサロン情報 ☆☆☆ 「学び合い・支え合い」を 通して育つ教師の力

キャリアアドバイザー
辻 井 賢 次

近年、文部科学省では「養成・採用・研修を通じた教員育成の一体改革」を推進しています。これからの社会で求められる教員像は、教育者としての使命感や責任感、子どもへの愛情に加え、変化に柔軟に対応する力、同僚や地域と協働する力、そして学び続ける姿勢が重視されています。いわゆる「総合的な人間力」を備えた教員の育成が求められており、大学教育にも、知識の習得にとどまらず、実践力・対話力・課題解決力の育成が期待されています。

本学では、こうした方針を踏まえ、学生一人ひとりが自らの将来を見据え、希望する進路を実現できるよう、個別面談や模擬面接、文書添削などを通して支援を行っています。特に教員を志望する学生に対しては、校長経験者である3名のアドバイザーが教育現場での経験を生かし、実践的な助言を行うことで、採用試験の合格のみならず、教壇に立った際に確かな教育力を発揮できる教員の育成を目指しています。

教員採用試験については、採用時期の早期化や複数回実施など、各自治体で受験機会を広げる取り組みが進められています。また、人物評価を一層重視する傾向が強まり、面接では自ら考え、協働して行動できる力が問われています。一方、採用時期の早期化に伴い、3回生の段階から受験に挑戦する学生も増加しており、教育実習前から教職という大きな目標に向かい、自ら課題を見つけて主体的に学びを深めています。早期から高い目標意識を持つ学生の存在は、学内全体に刺激を与え、学び合う雰囲気醸成しています。

さらに、近畿圏を中心に受験地域別の情報交換会を開催し、先輩学生から経験談を共有してもらうことで、同じ目標を持つ学生同士のつながりを生み出しています。互いに励まし合い、助け合う姿からは、協働して課題に取り組む力の芽生えが見られます。実際、連絡を取り合いオンラインで面接練習を重ね、互いの課題を指摘し合う学生も多く、採用試験当日には最後まで情報交換を続けながら一丸となって試験に挑む姿が見られました。こうした支え合いの輪が、学内に自然と広がっています。

アドバイザーとの面談は予約制で、年間50回以上面談を重ねる学生も少なくありません。最初は緊張して言葉に詰まっていた学生が、回を重ねるうちに自らの考えを整理し、的確に表現できるようになる姿には大きな成長を感じます。そして、多くの学生は、自らが支えられた経験をもとに、周囲の仲間にも温かく手を差し伸べるようになります。こうして広がる「学び合い・支え合い」の循環こそ、教育の原点であり、教師としての力が育つ場でもあります。

私たちキャリアアドバイザーも、この考えを大切にしながら、学生が自信を持って社会へと羽ばたけるよう支援を続けてまいります。後援会の皆様には、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

☆☆☆ 就職支援室情報 ☆☆☆

○「就職及び支援状況について」

奈良教育大学就職支援室
西岡 友里子

日頃より後援会のみなさまには本学就職支援に対してひとかたならぬご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

本学では教員採用試験対策の支援として、各教科の対策セミナー、模擬面接、模擬討論、模擬授業、場面指導解説、キャリアアドバイザーの個別相談などの様々な支援を行っております。

また、企業就職を目指す学生には、3回生の春にインターンシップ対策、秋には企業研究、自己分析、就活&ビジネスマナー、模擬面接などのガイダンスを行い、加えて、オンラインでの個別相談を実施しております。

令和7年度実施の公立学校教員採用試験につきまして、近畿地区での採用者数(募集人員)は、昨年度より若干増加傾向にありますが、減少した地域もあります。中でも、大阪府は大きく増加しました。(資料1)

本学学生の合格状況については、10月時点の集計で、次のとおりとなっています。(資料2)

(資料1)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援	養護教諭
奈良県	156 (145)	87 (85)	81 (78)	40 (40)	12 (12)
大阪府	700 (450)	600 (300)	250 (230)	220 (200)	30 (40)
大阪市	450 (410)	310 (230)	—	—	15 (20)
堺市	105 (120)	55 (55)	—	—	5 (5)
豊能地区	50 (70)	40 (70)	—	—	若干名
兵庫県	445 (415)	275 (285)	210 (240)	90 (90)	25 (30)
神戸市	180 (215)	160 (140)		60 (50)	15 (15)
京都府	180 (150)	120 (80)	135 (110)	50 (50)	15 (10)
京都市	180 (150)	120 (70)	20 (15)	70 (50)	10 (10)
和歌山県	95 (110)	14 (58)	24 (50)	30 (32)	11 (11)
滋賀県	220 (230)	140 (150)	84 (100)	45 (50)	11 (15)

※募集者数は、府県により「～名程度」、「約～名」で記載されている。
※()内は昨年度を示す。

(資料2)

奈良県 50	大阪府 25	大阪市 5	豊能地区 6	堺市 3	兵庫県 10
神戸市 5	京都府 4	京都市 1	和歌山県 1	東京都 6	その他 25

※合格者には保育士及び私立学校合格者を含む。

就職支援室では、後援会のご支援をいただきながら、学生が充実した学生生活を送り、希望する進路の実現に向けて、様々な支援を行ってまいります。保護者の皆様方におかれましては、本学で行う就職支援についてご理解を賜りますとともに、各種支援の積極的な活用をお薦めいただきますようお願い申し上げます。

☆☆☆ 課外活動の日々 ☆☆☆

○第76回奈良教育大学大学祭『輝薔祭』の活動

第76代大学祭実行委員会委員長
学校教育教員養成課程
3回生 戸田 朝陽

11月22日(土)、23日(日)の両日に無事に輝薔祭を開催することができました。

今年の輝薔祭は、総勢98名の大学祭実行委員会の学生が主体となって企画・運営を行い、多くの笑顔と温かい声に支えられ、大変充実した時間となりました。皆さまからのご支援が、学生たちの挑戦と成長を力強く後押ししてくださったことを、改めて実感しております。

今後も、より良い大学祭づくりに向けて、学生一同一層尽力してまいります。引き続きのご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



○書道教育専修3回生による書道展「一握の筆」

書道教育専修3回生 村田 実子

11月13日(木)～11月19日(水)の期間、学内山田ホールにて書道教育専修3回生展「一握の筆」を開催いたしました。

本展では、「漢字作品」「仮名作品」「創作」「共同制作」の4つに取り組みました。

「漢字作品」「仮名作品」では、これまでの臨書とは異なり創作に挑戦し、語句の選定や古典の検討を重ね、一人ひとりの個性がより鮮明に表れた作品となりました。そして、「創作」では自由な発想を、「共同制作」では学生生活を象徴する「春夏秋冬」をテーマに、季節の情景や感情を多様な技法で表現しています。

3回生となり、将来や進路に迷い悩む日々もありましたが、そのような中でも各々が作品制作と真摯に向き合い、自身の表現を探究し続けました。その積み重ねが今回の作品に息づいています。

誰一人欠けることなく学内最後の回生展を迎えられたことを、心よ



り嬉しく思います。支えてくださった先生方、先輩方、そして仲間たちに深く感謝申し上げます。

4回生では卒業制作展に向けた取り組みが始まります。今回の経験を糧に、より高い表現を目指して一同精進してまいります。



○部活紹介 軽音学部

学校教育教員養成課程教科教育専攻

3回生 田宮 一 孝

私たち軽音学部は、現在部員 80 名で活動しております。バンドごとに週に 1 回の練習を行い加えて多くの部員が個人練習を毎日行っており、スキルの向上に努めています。

輝麓祭では中庭（雨天時は大講義室）で演奏を行っており、毎年多くの方に来ていただいています。また 2 日目には、音響として株式会社ベースオントップさんにご協力いただき、プロのサウンドでライブを行うことができます。

今年度は広報活動に力をいれ、たくさんの方々にライブに足を運んでいただけるようになり、非常にうれしく思います。県内の他大学との合同ライブも企画しています。これからは、活動の場を学内のみに留めておくのではなく、外部での活動も増やしていきたいと思います。

現在はクリスマスライブやウィンターライブの企画が進んでいます。

そこに向けて楽器の練習またステージパフォーマンスの練習に取り組んでいます。部員一同技術向上に向け精一杯努力していく所存でありますので、もし時間が許せばこれを読んでいただいている方にも足を運んでいただければと思います。

ライブの予定・タイムテーブル等に関しましては SNS・校内ポスター等で発信しております。ご興味をお持ちの方は、ぜひそちらもご覧いただけると幸いです。



☆☆☆「学習奨励費をいただいて」☆☆☆

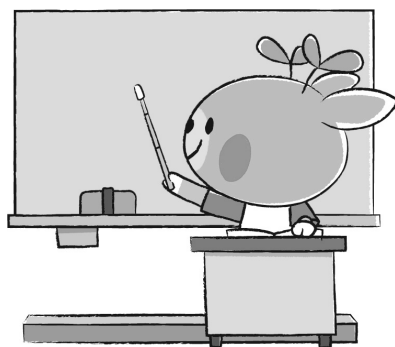
学校教育教員養成課程教科教育専攻

4回生 澤 井 咲 樹

私は現在、教員採用試験を終えて、卒業論文の執筆に取り組んでいます。卒業論文では、高校英語の授業における効果的な日本語の活用について取り上げようと考えており、様々な文献を読みあさっています。

私自身、学習奨励費は、1回生からいただいており、英検や TOEIC などの資格試験の受験やオンライン英会話の費用として活用していました。英検や TOEIC のスコアや、オンライン英会話で身につけた英会話力は、受験する自治体の教員採用試験で十分に生かすことができましたと感じています。この学習奨励費があったことで、英語資格試験の受験も満足いくまでできましたし、勉強するにあたり、必要な教材をそろえることもできました。加えて、大学から案内のあった、留学生と一緒に文化体験ができる学習旅行にも、奨励費を活用して参加しました。在学中に、勉強だけでなく、留学生と交流したり、行ったことのない場所に学習旅行に行ったりするなど、様々な経験ができ、悔いのない豊かな大学生活が送れたと実感しています。

学生生活も、残り半年を切りました。振り返ると、いろいろなことに挑戦できた 4 年間だったと思います。そして、私の学生生活を豊かなものにしてくれた、学習奨励費という存在は非常にかけがえのないものでした。4 月からは、奈良県の高校教員として、この大学で学んだことを十分に生かし、奈良県の教育に貢献できるよう精進していきたいと思います。改めて、学習奨励費をいただけたことを、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。



☆☆☆ 後援会からのお知らせ ☆☆☆

○令和 8 年度の学習奨励費の募集予定について

・書類配布等 令和 8 年 2 月中旬ごろ

(後援会の HP に掲出予定)

○会報の発行

会報の発行 奈良教育大学後援会事務局

住所 奈良市高畑町奈良教育大学内

電話 0742 - 27-9276

kouenkai9276@yahoo.co.jp

<https://www.narakyokouenkai.com>